

# は し が き

1. 本報告書は、平成12年度に外務省より委託された「サウディアラビアの総合的研究」の研究成果をとりまとめたものである。
2. 本研究は、世界最大の石油輸出国であり、世界経済へのエネルギー安定供給の鍵を握るサウディアラビアに関し、その内政、外交、経済、安全保障、王族、宗教界、体制批判、国家統合/国民国家形成の各側面より分析を行い、それらを総合的に考察するものである。同国では近年各方面にて大きな変化が看取され、その変化を通じた同国への再評価が求められている。それゆえ、本研究の目的は、同国の現状と其中長期的な見通しに関し、新たな視座を提示することにある。
3. 本研究の実施に当たっては、以下の委員を中心に研究会合を重ねた。

主 査：	小 杉	泰	京都大学教授
委 員：	加 藤	朗	桜美林大学国際学部助教授
	須 藤	繁	三菱総合研究所専門研究員
	中 田	考	山口大学教育学部助教授
	中 村	覚	東北大学大学院博士課程
	保 坂	修 司	拓殖大学講師
	森 伸	生	中東調査会研究員
委員兼幹事：	松 本	弘	日本国際問題研究所主任研究員
担当助手：	真 下	陽 子	日本国際問題研究所研究助手
4. ここに表明されている見解は全て個人のものであり、当研究所の意見を代表するものではないが、近年の大きな国際変化と今後の展望を考察する上で貴重な資料となりうることを期待する。
5. 最後に、本研究に終始積極的に取り組まれ、本報告書の作成にご尽力いただいた研究主査および委員、ならびにその過程でご協力いただいた外務省国際情報局他関係各位に対し、改めて深甚なる謝意を表すものである。

平成13年3月

財団法人 日本国際問題研究所  
理事長 小和田 恆